

【テーマ設定型寄附】

—全10事業—

寄附者様がテーマを設定した趣旨

株式会社伊藤園 様 テーマ：奈良県内の自然・環境・文化財の保全・活用事業

奈良県は、世界に誇る多くの歴史文化遺産と、それらと一体をなす歴史的風土豊かな自然環境に恵まれた地であり、その美しい景観を守り育てていかなければなりません。伊藤園では、そのために県民・事業者・行政の適切な役割分担と協働を行い、地域を活性化し、豊かな生活を引き継いでいく為に支援キャンペーンを行います。奈良県で本キャンペーンについて広く周知し、奈良県内の自然・環境・文化財の保全や活用、およびこの事業に伴う地域活性化への貢献についての認知・理解促進に取り組み、支援への賛同を募ります。

大和信用金庫 様 テーマ：大和川水系の水環境改善活動

奈良県民の憩いの場であるべき大和川は、全国1級河川ランキングワーストを脱却し、水質の改善が進んでいます。大和信用金庫は、地域社会とともに歩む地域の金融機関として、大和川のBOD（生物化学的酸素要求量）値の改善度合いに応じて金利を上乗せする「大和川定期預金」の取扱いなど、水質改善に向けた幅広い活動を行っています。

今回、大和川水系の水環境改善に取り組む団体の活動を支援することで、さらなる環境改善に役立てていただきたいと思います。



▲R2年3月 寄附受領式

イオングループ 様 テーマ：奈良の文化遺産やまちなみの保全事業 (イオンリテール株式会社様、株式会社山陽マルナカ様、株式会社ダイエー様)

私たちイオングループは、「お客様を原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、様々な環境・社会貢献活動に取り組んでいます。奈良県には、文化遺産をはじめ、近世の面影を残す歴史的なまちなみを有する地区も数多く存在します。

今回、「古都ならWAON」カードの利用金額の一部を寄附し、奈良の文化遺産やまちなみの保全活動、及びそれらを活用した地域の活性化活動を支援することで、「古都なら」の保全・活性化に役立てていただきたいと思います。



▲R2年7月 寄附受領式

奈良県青少年育成ボランティア協会 様 テーマ：地域の子ども・若者の健全育成事業

地域のグループや団体等による、子どもや若者を対象とした活動や子どもと大人が一緒になって取り組む活動、あるいは青少年による地域貢献活動などで、地域で子どもを育てる力の向上や青少年の健全育成に繋がる取り組みに役立てていただきたいと思います。

※寄附受領日は平成29年4月19日。解散に伴う寄附。

環境省指定特定外来生物
クビアカツヤカミキリによる桜樹枯損調査

補助金額 300,000円

補助事業の背景と目的

報道によれば、特定外来生物クビアカツヤカミキリによる被害は、2012年7月に愛知県(名古屋)で初めて確認された後、埼玉県、東京都、群馬県、大阪府、徳島県、茨城県、三重県、和歌山県、奈良県などへ拡大し、2020年までに11都府県で確認されている。桜類への被害は、2015年に大阪府南部で確認されたのをかわきりに、その後都市部の公園、街路、河川敷に植栽されている桜類を中心に拡大している。今後奈良県内に拡散していく恐れがあり被害拡散を防ぐために、県内の発生実態を調査し、拡散防止の資料とした。

補助事業の実施内容

主に寺社などに植栽されている名称のある「一本桜(単木)」31本を、「クビアカツヤカミキリ発消長調査票」を用いて、発生する病虫害と桜樹衰退原因を周辺環境をも含め、後述のスケジュールのとおり調査した。その後、特定外来生物クビアカツヤカミキリ発生被害への必要な対策を報告書の作成等により提案した。

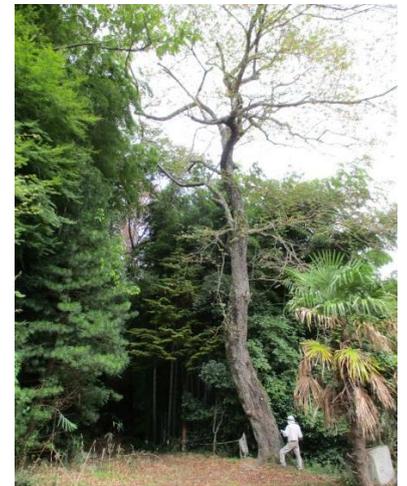
実施内容は、①文献、資料調査・調査方法等の方針を整理②現地の調査③調査資料取り纏め・報告書原案作成④報告書内容の現地確認・検討⑤最終報告書の作成を行った。



▲ クビアカツヤカミキリ発消長調査状況

補助事業の成果と今後の活動に向けて

現地調査を行ったことにより、具体的な感染箇所を示したり、桜樹の管理者等へのクビアカツヤカミキリ被害の実態を説明したりすることができた。成虫・フラス(幼虫の糞と木くずが混ざったもの)を発見した場合、所在する各市町村および県景観・自然環境課担当者への連絡により、初期防除が可能になる。健全な桜樹を維持するために、調査報告書等で示して、多くの人々に向けて保護意識を普及啓発し、積極的な維持管理の意識向上が図られるような一助となれることを期待したい。



- ▶ 現地調査状況：
地際部フラス発生有無の確認

寄附者からの声

寄附者：株式会社伊藤園
弊社の寄附の趣旨に賛同していただき、今後も奈良県の景観を守っていけるよう期待いたします。

団体名	樹木環境研究会議	【団体の設立経緯・目的】
所在地	奈良市平松3丁目20番14号	樹木医の知識と技術を通じて、巨樹・老樹、名木等の文化財及び、郷土の大切な自然環境の保全に貢献する。
活動の様子 (被害拡散防止活動の研修会:技術指導を行う)		【団体の主な活動の内容】
		健全で次世代に引き継ぐため、地域社会と連携し樹木文化の継承と発展を推進し、美しい環境保全に寄与する。

ヘイケボタルとゲンジボタルが棲む環境の維持と景観保全
 <多様な生物の棲める小川、湿地ビオトープ、池、田んぼ等の水辺の保全>

補助金額 300,000円

補助事業の背景と目的

2015年、環境省は生物多様性保全上の重要里地里山として全国500カ所を選定しました。その一つに大和川本流源流に位置する三谷「山野草の里」が選ばれ、また保全活動の主体として本会の活動が評価されました。「山野草の里」はレッドリストに掲載された希少動植物が棲む日本の代表的な里山であり、花や昆虫だけでなく多様な生き物の環境と、複雑な生態系を守ることが必要になっています。

補助事業の実施内容

里山の生き物を守るには里山の生態系の保全が大切です。里山のシンボルであるホタルの生育環境の保全に焦点を絞って、①冬場の水辺確保②ゲンジボタルの棲み処である小川、水路の掃除③ヘイケボタルの棲む水田で古代米の無農薬栽培に取り組みました。

また、親子で参加できる「みんなでいかそうビオトープ」では、実際の活動を体験してもらいながら、保全活動の大切さを実感してもらいました。



▲ みんなでいかそうビオトープ

補助事業の成果と今後の活動に向けて

ホタル数の増加等は数年間継続的に観察する必要が

ありますが、例年以上にホタルの飛翔する場所が多くなったように見受けられます。また、草刈り作業においても山野草や花だけでなく昆虫にも配慮して取り組むようになりました。

三谷地域の農家では高齢化により米作りをやめる人が増え、水田が放置されつつあります。また豪雨によりホタルが棲む小川が荒らされることが増えています。引き続き、源流地域の湧き水で冬場の水辺づくりや水田による古代米等の自然栽培等を行うことで、ホタルの生育環境とともに「山野草の里」の自然環境を守っていきたく考えています。

さらに保全活動の担い手の養成にも努力が必要です。山野草、ホタル、水生昆虫が共生する複雑な生態系についての理解を深めながら取り組んでいきます。



▶ 三谷周辺、小夫の栗園にて

寄附者からの声

寄附者： 大和信用金庫

「ヘイケボタルとゲンジボタルが棲む環境の維持と景観保全」に活用いただきありがとうございました。今後も「山野草の里」の自然環境を守る活動や環境保全の大切さを次世代に啓蒙していかれる活動に期待をしております。

団体名

特定非営利活動法人
山野草の里づくりの会

所在地

桜井市大字三谷528番地

活動の様子
(稲刈り後の稲架かけ)



【団体の設立経緯・目的】

里山の景観と自然環境の保護を目的に2001年4月「山野草の里づくりの会」を結成し活動を始めました。

【団体の主な活動の内容】

遊休農地の復旧、古代米の自然栽培、景観用に赤い花のそば栽培、里山林の整備活動と炭焼き、椎茸栽培等。

春日山、滝坂の道、能登川の高畑流域の自然環境、景観保全事業

補助金額 200,000円

補助事業の背景と目的

能登川は、「能登川の水底さへに照るまでに御笠の山はさきにけるかも」と万葉集にも詠われています。春日山原生林の生き物や植物、花の観察・記録と能登川のホタル成育環境の記録の改定版を冊子として発行し、地域の学校、社会福祉協議会の皆様に配布して自然環境保全の啓蒙をはかります。

補助事業の実施内容

能登川の水質測定：水生生物観察を滝坂の入り口、飛鳥中南プロムナード、能登川橋下流、紀寺住宅北側を対象に実施しました。pHは上流6.8、下流7.4であり、上流から下流までサワガニ生息で清流が保たれています。

能登川の紀寺住宅北側の清掃：飛鳥地域社会福祉協議会の皆様と協働で実施しました。燃えるゴミ26袋、金属5袋、プラスチック1袋、アシ・芝の束27束を奈良市アダプトプログラムにより回収しました。



▲ 能登川紀寺流域を飛鳥地域社協と協働清掃

花散歩、能登川観察：地球温暖化気候変動の影響による原生林の倒木、能登川河川敷の破壊の観察記録を示した「春日山のヒミツ」、「ホタルの能登川」の改定版を作成し、地域に寄贈しました。

補助事業の成果と今後の活動に向けて

能登川の水質保全のさらなる浄化をカキ殻の設置による効果で確認しました。今後、里山杉林整備では、景観形成と間伐材による、さとやまもっこ工房での作品加工を展開していきます。



▲ カキ殻設置による能登川水質浄化活動

寄附者からの声

寄附者： 大和信用金庫

「春日山、滝坂の道、能登川の高畑流域の自然環境、景観保全事業」に活用いただきありがとうございました。カキ殻の設置による能登川の更なる水質浄化に期待しております。

団体名 高畑自然教室

所在地 奈良市高畑町1349

活動の様子
(高畑自然教室のポスター)



【団体の設立経緯・目的】

春日山原生林から高畑へと流れる能登川にはホタルがいます。この自然環境を保全、未来に引き継ぎます。

【団体の主な活動の内容】

ホタル：能登川水質 里山：間伐景観形成
花散歩：春日山動植物観察
親子体験：間伐材木工 地域協力：行事協力

新書本『奈良万葉の旅百首』の制作

補助金額 100,000円

補助事業の背景と目的

新元号「令和」の出典が、万葉集に登場する「梅花の歌32首」の題詞であったことから、今も静かな万葉集ブームが続いています。万葉集に登場する地名数は延べ約2,900で、中でも奈良県の地名数は全国で最高の約900と、約3分の1にのぼります。今後とも、全国各地から多くの人が奈良県内の万葉集のゆかり地に来ることが予想されます。

しかし、奈良県内の万葉集のゆかり地を紹介した書籍は数が少なく、また入手困難なものが多いことが実情です。そこで、コンパクトに万葉歌とゆかり地を紹介しつつ、携えて気軽に現地を訪ねてもらえるような新書本を作ろうと思い立ちました。

補助事業の実施内容

本書のコンセプトは「この本を携えて、現地を訪ねてもらおう」です。

第1段階として編集委員により、奈良県内で詠まれた万葉歌百首を選びました。万葉集をゆかり地とともに紹介した本としては、犬養孝著『万葉の旅』がよく知られており、全3巻のうち上巻がすべて「大和」で、多くの奈良県内の歌が紹介されています。そこで、当会は重複を避け、「奈良通」としてあまり知られていない歌も多く取り

上げるようにしました。

第2段階として当会の会員60人が手分けして原稿を書き、現地を訪れて写真を撮りました。編集委員がそれらのチェックを行い、制作しました。

補助事業の成果と今後の活動に向けて

本書は國學院大學教授・上野誠氏の監修を受けたうえで、令和3年2月末日に京阪奈情報教育出版株式会社から刊行されました。発行部数は6,000部で、売れ行きも順調です。「見開き2ページにまとまっているのでとても読みやすい」「地図や交通手段が詳しく載っているので、観光ガイド本としても使える」「コラムや巻末の基礎知識編が充実しているので、格好の万葉集の入門書になっている」との声があり、好評を博しています。今後も、このような奈良県を紹介する書籍を制作し続けたいと思います。



▲ 本書を奈良新聞社に献本(読者プレゼント用)



▲ カバー(表紙) 奈良万葉の旅百首

寄附者からの声

寄附者：イオングループ

「奈良万葉の旅百首」発刊おめでとうございます。奈良を紹介する書籍の制作に弊社の寄附金を活用頂き有難うございます。売れ行きも順調との事、今後も制作をご継続されます様、お願い致します。

団体名

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会

所在地

奈良市橋本町3番地の1 きらっ都奈良内

活動の様子
(JR万葉まほろばウォークの様子)



【団体の設立経緯・目的】

「奈良まほろばソムリエ」資格取得者などが知識・経験を生かし、ガイドや講演などの社会貢献活動を実施。

【団体の主な活動の内容】

観光ボランティアガイド、奈良に関する講演、県内文化財の調査、新聞記事の執筆、書籍の刊行など。

奈良市指定文化財(樹木に関する天然記念物)の現状と対応策

補助金額 380,000円

補助事業の背景と目的

奈良市の文化財に指定されている天然記念物(13件令和2年3月27日現在)には、巨樹・老樹・名木などの単木や巨樹群、社叢林など樹木を保存の対象としたものが多い。その土地で数百年にわたって人々とともに歳月を重ね、その土地の歴史・文化を記念する自然物として大きな役割を果たし、大切に保護されてきたものである。近年これら樹木の衰退が目立ち始め、枯死、病虫害の発生、倒伏の危険性がある。樹木の健全度を調べ、調査結果から衰退樹木への保護施策を提案した。

補助事業の実施内容

調査対象である樹木は指定文化財となってから長い年月を経て存続が危ぶまれている状況にあるものも多い。周辺環境をも含め、対象樹木の衰退原因を「巨樹・老樹の健全度調査票」「社叢の健全度票」を用いて、後述のスケジュールのとおり、各該当する項目を調査し、必要な対応策を報告書に記載して関係者に提出した。

実施内容は、①文献、資料調査・調査方法等の方針を整理②現地の調査③調査資料取り纏め・報告書原案作成④報告書内容の現地確認・検討⑤最終報告書の作成を行った。



▲ 現地調査状況：樹勢衰退、枯死大枝等を確認

補助事業の成果と今後の活動に向けて

巨樹・老樹の健全度調査13件では、「健全」(3件・23%)、「やや不健全」(9件・69%)、「不健全」(1件・8%)であった。また、社叢の健全度調査5件では、「健全」(2件・40%)、「やや不健全」(3件・60%)であった。この調査結果から各樹木の健全度を判定し対応策を調査報告書など資料で提示した。

保護の基本は、指定時の状況を保存することである。地域住民への具体的な内容説明などを行うことで、地域での保全への取組みも期待できると考える。我々には樹木を今後とも健全な状態で後世の人々に引き継いでいく責務があり、今回の調査がその一助となれることを期待したい。



▲ 現地調査状況：対象木の健全度状態の確認

寄附者からの声

寄附者： イオングループ

奈良の貴重な天然記念物である巨樹・老樹・名木を後世に引き継ぐ活動に、「古都奈良WAON」の寄附金を活用頂き有難うございます。今後ともご継続されます様、願います。

団体名

樹木環境研究会議

【団体の設立経緯・目的】

所在地

奈良市平松3丁目20番14号

樹木医の知識と技術を通じて、巨樹・老樹、名木等の文化財及び、郷土の大切な自然環境の保全に貢献する。

活動の様子
(保全活動(植栽基盤診断)の技術指導を行う)



【団体の主な活動の内容】

健全で次世代に引き継ぐため、地域社会と連携し樹木文化の継承と発展を推進し、美しい環境保全に寄与する。

椿井史跡公園づくり事業

補助金額 400,000円

補助事業の背景と目的

椿井史跡公園の一角は、かつて雑木と倒木で危険であったため、伐採した雑木を粉碎機で砕きそのまま天然の肥料にしたこともあり、植えた桜は毎年美しい花を咲かせ、公園を彩るようになりました。しかし、土が肥えてしまったことにより、イノシシが来るようになり、広場が掘り返され公園内は足場がないほど荒れてしまいました。そこで東屋の前を固めて整地することにより、雑草と獣害を防ぎたいと考えました。

補助事業の実施内容

コロナ対策を万全にしながら、広場全体の草刈を実施しました。鍬やシャベル等でイノシシに掘られた穴を埋めると同時に、岩のイスとテーブルも安定させました。また、東屋の前は出入りしやすいよう広めにし、出入り口までは桜の花が降り注ぐ通路のように、木で枠を取って専用の土で固めました。



▲ 東屋前の広場に真砂土を入れて固める

補助事業の成果と今後の活動に向けて

この事業のおかげで、子どもたちはマスクをしながらも走り回り、大人たちは東屋やベンチでゆっくりと休憩

できるようになりました。今は難しくとも、今後は催し物が開けるような、地域交流の場になると思っています。

里山は管理し続けなければ竹藪に埋没し、イノシシに荒らされていきます。登城道や史跡も消え、土地の英雄の生き様や伝承、地域文化は藪に没してしまいます。子どもたちが地元の史跡や文化を知ることは、自らが古代から中世、現代に至る歴史の流れの中に立つことでもあり、その立ち位置を知ることにより自己の存在意義にも気づくことでしょう。

公園を草刈や希少植物の保護、桜木の植栽、景観づくりなど社会奉仕を学ぶ自然教室とするためにも、少しずつ整備を進めたいと思います。



▶ こども桜苑で
花火をする
子どもたち

寄附者からの声

寄附者：イオングループ

椿井史跡公園の環境整備に「古都奈良WAON」の寄附金を活用頂き有難うございます。里山は手入れを怠れば直ぐ荒廃します。今後も地域文化の伝承と共に、ご継続をお願いします。

団体名	特定非営利活動法人 うぶすな企画	【団体の設立経緯・目的】
所在地	生駒郡平群町椿井1360番地	文化の発展や地域興しをするためにイベントを企画・開催します。また他の文化活動を支援します。
活動の様子 (公園はすぐに荒れるので手入れを頑張っています)		【団体の主な活動の内容】 平群町の中世遺跡の保護と周知のため椿井城出城跡周辺を伐採整備の後、桜木を植樹して史跡公園を作っています。

新作能「寿椿」～能を次世代へつたえる～

補助金額 400,000円

補助事業の背景と目的

田原本町には、世阿弥の軌跡がのこる「補巖寺」という寺がありますが、今は門等を残すのみとなり、地元の認知度も低いです。世阿弥と妻・寿椿に由縁の深い田原本町で、世阿弥・寿椿にまつわる能を作ることにより、歴史・文化財・歴史的背景を、「形」として残そうと考えました。また子どもも演者として登場する内容にすることで、次世代への継承にもつながり、「能を次世代へつたえる」という未来形に、より現実味を帯びさせることが目的です。

さらに、能楽師・能楽研究者の作成による本格的な「能」であるため、「新作能」の位置付けとして伝統芸能分野でも広く認知させることを目的としています。

補助事業の実施内容

田原本町の補巖寺を舞台に、能楽界の大発見となった世阿弥の軌跡を記す納帳が発見されたこと、世阿弥の妻・寿椿の視点からみる世阿弥を、新作能「寿椿」として制作しました。その後、こども能楽教室の子どもたちや地元の方と共に、新作能「寿椿」の練習を行い、また能楽師の方々に試演をしてもらうことで、新作能「寿椿」を披露できる形を作りました。



▲ 2020.12.27 子ども全体練習

補助事業の成果と今後の活動に向けて

新作能「寿椿」は、記紀万葉プロジェクトの一つである「美穂津姫まつり」にて、YouTubeで公開されました。その後、日本語による分かりやすい解説文を入れたバージョン、英語による解説文を入れたバージョンが作成され、今も日本及び世界中に発信されています。

また、2021年も当会では世阿弥の命日に補巖寺参詣を実施しました。新作能を通して、補巖寺の歴史、世阿弥について、また能についても知ってもらうことができました。今後も、この新作能「寿椿」を通して、田原本町の歴史や能楽について伝えていきたいと思っています。



▲ 2021.1.17 能楽師試演

寄附者からの声

寄附者： イオングループ

新作能「寿椿」のご発表、おめでとうございます。次世代への伝統文化継承の為、弊社の寄附金をご活用頂き有難うございます。今後も地域の歴史や能楽を伝承されます事、期待しております。

団体名 伝統文化を次世代へつたえる会

所在地 磯城郡田原本町秦庄284-1

活動の様子
(子どもたちとともに能を披露)



【団体の設立経緯・目的】

教室、遊び、ワークショップ等の形で日本の文化・伝統を継承または復活し、郷土愛と共に次世代へつなぐ

【団体の主な活動の内容】

こども能楽教室の実施や、浴衣・和菓子・畳等のワークショップの実施

平城山地区の里山の環境保全活動を通じた自然体験事業

補助金額 100,000円

補助事業の背景と目的

里山の環境保全には、継続的、計画的な植栽や間伐作業が欠かせません。子どもたちに植栽を通して自然に接する体験をしてもらうことを目的として今回の事業を実施しました。また、間伐した椽を活用し、子どもたちに椎茸原木の作成を体験してもらい、食育の推進を図りました。

補助事業の実施内容

子どもたちが自然に接する体験として、整備した竹林脇の法面に、桜や椽の苗を植えてもらいました。また、間伐材を活用し、椎茸原木の作成(椎茸菌の植付)をイベントとして開催しました。

近隣の多くの子どもたちが参加しました。



▲ 植栽の様子

補助事業の成果と今後の活動に向けて

今回の事業を通して、地域の子どもたちと交流を深める事ができました。

竹林整備を実施したことによって、地域の生活環境の改善に貢献できたと思います。地域住民の方からは感謝の言葉をいただきました。また同時に、竹林整備の作業項目や作業手順等が確立し始めたため、今後の活動に活かすことができると思います。

今後は各種イベント(七草狩り、筍掘、田植・稲刈、芋掘等)を開催しながら、地域に貢献していきたいと思ひます。



▲ 椎茸原木の作成の様子

ひとこと

青少年・社会活動推進課

子ども達の自然に接する機会が減少する中、自然と触れ合う機会の提供、食育の推進という観点から大変意義のある事業であったかと存じます。今後も地域での活動を進められることを期待します。

団体名	特定非営利活動法人 共生学舎	【団体の設立経緯・目的】
所在地	奈良市法華寺町1576番地の3	(1) 里山の環境の保全・改善を推進する (2) 農作業を通じて、子ども達の食育を推進する
活動の様子 (地区の生活環境の改善活動)		【団体の主な活動の内容】
		・平城山地区の生活環境美化活動(24回/年) ・竹林の保全活動(6回/年) ・畑、田圃(稲作)の維持活動

子ども主体の防災体験プログラム

補助金額 100,000円

補助事業の背景と目的

近年、大きな災害が増えてきており、また東南海地震の発生も近づいていると言われています。学校等でも避難訓練は実施していますが、生駒市は地震の少ない地域のため、災害への意識が低くなっていると考えられています。

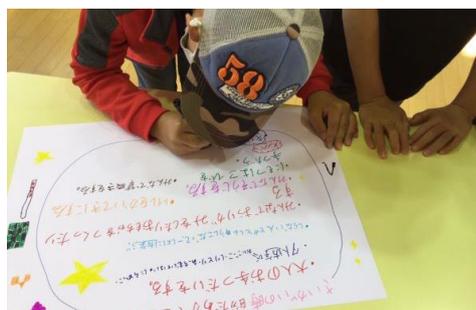
そこで、実際に地震が起きたときに何ができるのかを子どもたちが主体となって考え、体験することで、防災意識を高め、災害に備える力をつけることを目的に、今回のプログラムを実施しました。

また、生駒市は他地域からの移住者が多く、親子も子どももつながりが薄いため、校区外をつながりを作ることも目的のひとつでした。

補助事業の実施内容

子どもたちを小グループに分け、防災について講義を行い、グループワーク等を通してながら、一緒に考えてもらいました。また、自宅付近の防災マップを実際に見てもらい、どんな災害が起こりやすいかを考えてもらいました。

昼食はアルミ缶や牛乳パックを利用し、実際にサバイバル飯を自分でつくる体験をしました。



▲ 災害時にできることを考えて発表

午後からは、応急手当講習を行い、災害時だけでなくケガの時でも使える知識を身につけてもらいました。

補助事業の成果と今後の活動に向けて

子どもでも災害時に出来る事を考えてもらったことにより、普段学校で行っている避難訓練のその先を考えるきっかけとなりました。今後も、子どもたちが防災について考えたり、学んだりする機会を設けて行きたいと思いません。



▶ サバイバル飯づくり

ひとつこと

青少年・社会活動推進課

子ども達が中心となって災害時の対応を学ぶことができる貴重な機会であったかと存じます。防災に対する意識が高まる中、今後も同様の取組を続けていただくことで、子ども達の防災についての理解が高まることを期待します。

団体名

一般社団法人
リトルパイン総合型地域スポーツクラブ

所在地

生駒市緑が丘1454-34

活動の様子
(親子スキー
教室)



【団体の設立経緯・目的】

スポーツによって地域の人々の健康や毎日の生きがいを持ってもらえるよう設立しました

【団体の主な活動の内容】

子どもからシニアまでのスポーツや文化体験教室・イベントの運営

オンライン寺子屋事業

補助金額 100,000円

補助事業の背景と目的

新型コロナウイルス感染症により、子ども達は学校での学習の機会が減少し、反面、自宅で学習する機会が増えつつある。学校のオンラインによる授業実施、学習指導はまだ十分には進んでおらず、また保護者の中には子ども達の学習環境の変化にどのように対応すればよいか分からず困惑している人もいた。

そこで、子どもたちが自宅にいても学習することができるように、オンラインによる寺子屋を立ち上げた。

補助事業の実施内容

Zoomを活用したオンライン授業を下記のとおり随時実施した。

- ・時間：午前6時15分から午前6時55分までの40分間
- ・参加者：1回につき小学1年生から6年生まで、20回線分、最大30人
- ・内容：子どもが指導者に1人ずつ順番にできたことを報告し、その報告をもとに指導者が次の課題についてまとめていくことで、自学自習の際の学習の進め方や教材の使い方について学んでいく。最終的に子どもたちが自立して学習を進められるようにすることを目標とした。



▲ とある日のオンライン寺子屋の様子①

補助事業の成果と今後の活動に向けて

オンライン寺子屋には家庭での自学自習の習慣が身についたと自らが判断すると、寺子屋を離れ、卒業するという決まりがある。多くの子どもたちが卒業していき、各自のペースで学習できるようなアプローチができたと思う。

突然の休校により困惑していた保護者にもオンライン寺子屋は大変喜んでもらえた。実施時間を保護者の出勤前の時間にすることが良かった点であると思う。

数年前から同内容のリアルの「親子寺子屋」の取組をしていたため、オンラインになってもスムーズに移行することができた。今後の課題は指導者の養成である。この取組を多くの人に紹介し、家庭での自学自習の定着を広めていきたい。



▲ とある日のオンライン寺子屋の様子②

ひとこと

青少年・社会活動推進課

子ども達の自宅学習の機会が増加する中、勉強を教えるのではなく、勉強の仕方を教えることで、子ども達の自立に繋がったかと存じます。今後もオンラインを通じて活動が広がっていくことを期待します。

団体名

にっこり

所在地

宇陀市大宇陀下本2175番地

活動の様子
(子どもたちを招いて山村留学)

【団体の設立経緯・目的】

地域の伝統的行事の手伝いをする団体として活動を始め、現在は地域おこしに焦点を当てて活動している

【団体の主な活動の内容】

空き家改修事業、世代間交流での町おこし事業、新住民移住・伝統的事業伝承・町おこし事業のサポート等